



27:1 イサクが年をとり、目がかすんでよく見えなくなったときのことである。彼は上の息子エサウを呼び寄せて、「わが子よ」と言った。すると彼は「はい、ここにおります」と答えた。

27:2 イサクは言った。「見なさい。私は年老いて、いつ死ぬか分からない。

27:3 さあ今、おまえの道具の矢筒と弓を取って野に出て行き、私のために獲物をしとめて来てくれないか。

27:4 そして私のために私の好きなおいしい料理を作り、ここに持って来て、私に食べさせてくれ。私が死ぬ前に、私自ら、おまえを祝福できるように。」

27:5 リベカは、イサクがその子エサウに話しているのを聞いていた。それで、エサウが獲物をしとめて父のところに持って来ようと野に出かけたとき、

27:6 リベカは息子のヤコブに言った。「今私は、父上があなたの兄エサウにこう言っておられるのを聞きました。

27:7 『獲物を捕って来て、私においしい料理を作ってくれ。食べて、死ぬ前に、【主】の前でおまえを祝福しよう。』

27:8 さあ今、子よ、私があなたに命じることを、よく聞きなさい。

27:9 さあ、群れのところに行って、そこから最上の子やぎを二匹取って私のところに来なさい。私はそれで、あなたの父上の好きな、おいしい料理を作りましょう。

27:10 あなたが父上のところに持って行けば、食べて、死ぬ前にあなたを祝福してくださるでしょう。」

27:11 ヤコブは母リベカに言った。「でも、兄さんのエサウは毛深い人なのに、私の肌は滑らかです。

27:12 もしかすると父上は私にさわって、私にからかわれたと思うでしょう。私は祝福どころか、のろいをこの身に招くことになります。」

27:13 母は彼に言った。「子よ、あなたへののろいは私の身にあるように。ただ私の言うことをよく聞いて、行って子やぎを取って来なさい。」

27:14 それでヤコブは行って、取って母のところに持って来た。母は、父の好む、おいしい料理を作った。

どんなに信仰の人でも、高齢になれば洞察力や判断力が鈍ります。それは罪深い人格になったのではなく、衰えの問題で誰でも通る道なのです。イサクもそれを自覚していた部分と自覚しきれなかった部分があったことでしょう。彼は体の衰えゆえに、自分によくしてくれるエサウを愛しました。

それでも彼は祝福が神ご自身から来ることについては、固い信仰を持っていました。神をあがめていたのです。衰えても最後に残るのは神への信頼です。

一方リベカはヤコブを愛しました。エサウが野生的な人であったのに対し、ヤコブは優しい雰囲気があったのでしょうか。このように愛（両親に限らず、他の人間関係でも）が偏るときには、もしかしたら自分中心的な動機が入り込んでいるかもしれません。または視野が狭くなっているかもしれません。気をつけたいものです。

かつてエサウは弟やヤコブに長子の権利を譲りました。もしも誠実な人であったら、約束を守りヤコブに与えたことでしょうか、そうならずにリベカはだまし取ることを計画しました。実に不誠

実なやり方です。結局それは後に大きな争いと別離をもたらすことになります。

その主張が正しければ何をしても良いということはありません。主の喜ばれる方法が必要です。愛と誠実、そして互いを思いやる道を考える必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

